

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 コーポレート・ガバナンス

5 自分の頭で考える
青山学院大学大学院
会計プロフェッション研究科 教授
八田進二

9 「守り」があるから「攻め」がある
弁護士
國廣 正

13 CHALLENGE
ETC2.0の可能性

14 Taste of the Season
森下典子

16 首都高HEADLINE

18 business essay
豊かなるムダの世界
博報堂ケトル 代表取締役社長・共同CEO
嶋 浩一郎

20 つくる人まもる人
首都高ホールサービス神奈川株式会社
深澤裕介

22 高速百景 中野正貴

contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited

column | RAMPWAY 29

首都高名所案内
贅沢な
世田谷リゾート
コラムニスト
泉 麻人

首都高の渋谷線（3号線）は夏のドライブでよく使う道だ。東名高速に入って富士や伊豆の方へ遠征するのもいいけれど、用賀で降りても周辺にはちょっとしたリゾート気分が味わえる場所がいくつかある。

都営のゴルフ場だったという。手元にある1970年の地図には「都立家族公園」（旧砦ゴルフ場）なんて表示されているが、そういえばひと頃まで「砦ファミリーパーク」という呼び名も浸透していた。

まずは、砦公園。昭和30年代から少しづつ公園として整備されていったこの一帯、戦前戦時は軍の演習地や防空用地に利用され、戦後しばらくの間は森が素晴らしい。犬を散歩させている人とよく出くわすが、土地柄、高そう。な犬が目につく……イメージがある。

で、イングランドのカントリーハウスを思わせる洋館の佇まいが郊外風景によくなじんでいる。

サンングラスをかけて重装備で走る、見るからに芸能人と思しきジョガーの姿も見受けられる。緑地の間を流れる川は、人工の河川ではなく谷戸川という昔ながらの小川で、地図で辿っていくと水源は祖師谷大蔵近くの線路端。世田谷には「沢」の付く地名が多いけれど、もとは田畑の脇から湧き出した、いくつもの沢の細流が寄り集まったような流れだったのだろう。

文庫の裏手の崖道を下っていくと、野里の神社の趣きがある岡本八幡神社がひっそりと建っていて、さらに下った所には岡本民家園がある。移築された茅葺きの古民家に入ると、薬の征露丸にも似た、苦い囲炉裏の匂いがして懐かしい気分になる。

この谷戸川の流れに沿って、東名の南側へ進んでいく（実際は東名の上の公園橋を渡る）と、静嘉堂文庫を中心にした緑地がある。谷戸川はこの崖下で丸子川と合流するわけだが、この一帯は昔ながらの世田谷の丘陵の雰囲気がよく残されている。地理学的には国分寺崖線というらしいが、国分寺あたりから続く野川（広い意味では南方の多摩川）沿いの河岸段丘の淵にあたり、眺望が良いこともあって、明治、大正

多摩川の水質もこのところ随分と改善されて、河川敷の外れのちよっと草深い小径なんかを歩いていると、ふと子供の頃の田舎の夏の川景色が回想されてくる。



illustration by Takao Nakagawa

期から富裕な人々の別荘地として人気があった。静嘉堂は三菱の岩崎家、主に2代目・彌之助が集めた古美術品を収蔵する文庫として、息子の小彌太が開設（もとは高輪にあった）したもの

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に『東京いい道、しぶい道』（中公新書ラクレ）がある。